愛知学院大学　引田 弘道学長インタビュー

キャンパスごとの特色ある教育で
全体を俯瞰し対応できる人材を育成

１８７６（明治９）年、名古屋市門前町に創設された曹洞宗専門支校が発祥の愛知学院大学（本部・愛知県日進市）は９学部１６学科、学生数１万２０００人を擁する中部地区最大級規模の学院。少子高齢化、グローバル化など多難の中２０２０年４月、名城キャンパスの整備事業完成と同時期に新学長に就任した引田弘道氏に話を伺った。（聞き手・中部財界フォーラム社代表取締役塚本隆）

――新学長に就任おめでとうございます。率直な心境をお聞かせください。

引田　大変だなあ、というのが率直な感想でしょうか。嬉しい半面もありますが、少子化などで大学は厳しい状況。小出忠孝元学長も言っておられましたが、大学の将来は明るいとは言えません。企業はすぐ結果が出て評価されますが、大学は結果がでるのは先のことです。また、何を結果とするかも難しい。指標も多く、世間が言う「ブランド力」を高くすることが使命かと思っています。そのブランドを守ることもプレッシャーになってきます。先輩に言われていますがブランドを壊さないようにしていきたい。

――４月、名城公園キャンパス整備事業（第２期）が完成の運びになりました。特色を教えてください。

引田　数年前から大学キャンパスの都心回帰の動きがあり、名城公園キャンパスも２０１４年に第１期整備が完成し商学部、経営学部、経済学部が移転しました。同時に学生気質が変わってきて、以前は車を使った通学でしたが、自転車やバスにシフトするなど交通の便が大きい要素になっていると思います。学生は愛知県の外側から来る学生が多く、名城公園は立地的にもいいかなという判断。もう一つは近くに柳原商店街がありますが、パワーダウンしており地域連携により活性化のいいきっかけになるのでは、という思いもありました。さらに名古屋栄再開発の一環に寄与できるかなあという面もあります。

４月から社会科学系４学部（商学部、経営学部、経済学部、法学部）が集結する名城公園キャンパス外観

４月からは全学部の１年生すべてが名城公園キャンパスで授業を受けます。キャンパスの特徴は「名城公園の風を流す」というコンセプトで環境負荷をほぼかけない設計。建物ビルはゼロエミッション賞もいただいています。２００５年愛・地球博会場演出プロデューサーを務め、なごや環境大学学長でわが大学の特任教授でもある造園家、涌井史郎氏のデザインです。またアクティブラーニング専用の学習室が沢山あります。皆が集まって議論し、英語で積極的に意見を言い、先導役になれるようとの思いからです。

一方で、曹洞宗など日本文化を外国に発信できるものにしたい思いもあります。

――少子化など難しい時代です。生き残るためには？

引田　わが大学は単科大学ではなく総合大学なので、特色はと聞かれると難しいですね。敢えて言うとキャンパスごとに特色があります。名城公園は社会系。楠元は薬学・歯学の国家試験系、日進はスポーツと日本文化を発信していく。その上に人間教育や「行学一体」「報恩感謝」の建学の精神を載せていくのです。

ブランド力と言いながら、高校生にはやはり偏差値を高める必要がある。大学は総合的に力を入れていき、各指標を上げていく。小回りが利かないが、そうやって特色を出して頑張るしかないと思っています。

――１３万人を超える卒業生がいて、愛知県

引田　弘道（ひきた　こうどう）
1986 年東京大学大学院博士課程満期退学、博士（文学）、1986 年 4 月、愛知学院大学文学部宗教学科講師、1996 年同学科教授、2018 年愛知学院大学副学長、2020 年 4 月より現職。

が本社の社長数はトップクラスです。

引田　人間性は良く、私も３０数年前はわが大学は「愛知の慶応」と言っていました。優等生タイプが多く、就職活動などでは前に出てくるタイプではないといわれています。昔は地元の需要だけでも生きていくことができましたが、国際化のこれからは中国や東南アジアをはじめとする海外にも出ていく必要があり、待っているだけではいけません。企業も高度成長期のようにはいかず、経済格差も進み、規模もしぼみ、海外へ出ていく。こうなってくると後継者問題が顕在化していきます。大変な時代なのでどこでも活躍できるように、人を強くしないといけない。

その一つとして、グローバル化、産学官の連携の一つとして産業界と協力した授業も進めています。中日新聞や税理士会、西濃運輸など計１５ほどの講座があります。元ＮＨＫの池上彰氏や涌井氏の授業も年数回行っています。人が集まりやすいという点では名城公園キャンパスは地の利が良いですね。同窓生の力も活用しながらとにかく元気の出ることをやっていきます。

――最後にあらためて、新学長としての抱負を聞かせてください。

引田　まずキャンパスごとの特色を最大限引き出していく。日本経済もどうなるか分からない不透明な時代なので先を見る力を付けなくてはいけない。スマホは便利で一部の内容を知ることには向いていますが、全体を俯瞰することには向いていません。いざという時発想の転換ができるか、対応できるか。学生たちには全体を見て何が大事か見抜く力を付けさせていきたい。謙虚に頑張り、指標を上げていくしかないと思っています。

学生が能動的に学べるスペースも充実